

日本薬局方 イソプロパノール
イソプロパノール「ヨシダ」貯法：室温保存
有効期間：3年

Isopropanol「Yoshida」

承認番号	22000AMX00327000
販売開始	1961年1月

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）
損傷皮膚及び粘膜には使用しないこと [刺激作用を有する]

3. 組成・性状

3.1 組成

有効成分	1mL中 日局イソプロパノール 1mL
------	---------------------

3.2 製剤の性状

性状	無色澄明の液で、特異なおいがある。 水、メタノール、エタノール（95）又はジエチルエーテルと混和する。 燃えやすく、揮発性である。
----	---

4. 効能又は効果

手指・皮膚の消毒、医療機器の消毒

6. 用法及び用量

通常イソプロパノールとして、50～70%液を用いる。

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.2 その他の副作用

	頻度不明
過敏症	発疹等
皮膚	刺激症状

12. 臨床検査結果に及ぼす影響

注射部位に発赤を起こすことがあるので、アレルギーテストの判断を妨害することがある。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤使用時の注意

- 14.1.1 外用にのみ使用すること。
- 14.1.2 眼に入らないように注意すること。入った場合には水でよく洗い流すこと。
- 14.1.3 イソプロパノール蒸気に大量に又は繰り返しさらされた場合、粘膜への刺激、頭痛等を起こすことがあるので、広範囲又は長期間使用する場合には、蒸気の吸入に注意すること。
- 14.1.4 同一部位に反復使用した場合には、脱脂等による皮膚荒れを起こすことがあるので注意すること。
- 14.1.5 本剤は血清、膿汁等のタンパク質を凝固させ、内部にまで浸透しないことがあるので、これらが付着している医療機器等に用いる場合には、十分に洗い落としてから使用すること。
- 14.1.6 合成ゴム製品、合成樹脂製品、光学器具、鏡器具、塗装カテーテル等には、変質するものがあるので、このような器具は長時間浸漬しないこと。
- 14.1.7 引火性があり、爆発の危険性もあるため、火気（電気メス使用等も含む）には十分注意すること。
- 14.1.8 電気メス等を使用する場合には本剤を乾燥させ、アルコール蒸気の拡散を確認してから使用すること。電気メスによる発火事故が報告されている。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

微生物のタンパク質の変性凝固、代謝障害、溶菌により殺菌作用を示す。

18.2 抗菌作用

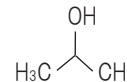
本剤は、使用濃度において栄養型細菌（グラム陽性菌、グラム陰性菌）、酵母菌、ウイルス等には有効であるが、芽胞（炭疽菌、破傷風菌等）及び一部のウイルスに対する効果は期待できない。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般的名称：イソプロパノール（Isopropanol）

化学名：Propan-2-ol

化学構造式：

分子式：C₃H₈O

分子量：60.10

性状：無色澄明の液で、特異なおいがある。

水、メタノール、エタノール（95）又はジエチルエーテルと混和する。

燃えやすく、揮発性である。

比重 d_{20}^{20} ：0.785～0.788

20. 取扱い上の注意

火気を避けて保存すること。

22. 包装

500mL（ガラス容器）

23. 主要文献

- 1) 第十八改正日本薬局方解説書：廣川書店、2021；C-583-C-585

24. 文献請求先及び問い合わせ先

吉田製薬株式会社 学術部
〒164-0011 東京都中野区中央5-1-10
TEL 03-3381-2004
FAX 03-3381-7728

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元

吉田製薬株式会社
埼玉県狭山市南入曽951